特別対談

「神戸発　女子サッカーの展望　INAC 神戸の挑戦」

日本サッカー協会日本代表 OB・OG 会会長　永島　昭浩さん
ＩＮＡＣ神戸レオネッサ監督　宮本ともみさん
（聞き手：神戸市スポーツ協会　ほか）

本日は、日本サッカー協会日本代表 OB・OG 会会長で神戸市スポーツ協会評議員も務めていただいている元サッカー日本代表・ミスター神戸の永島昭浩さんと、女子サッカーの先駆者として日本代表「なでしこジャパン」で活躍し、女子のフル代表コーチも歴任され、今シーズンから WE リーグ INAC 神戸監督に就任された宮本ともみさんに「神戸発　女子サッカーの展望　INAC 神戸の挑戦」をテーマにお話しいただこうと思います。
はじめに宮本監督がめざす攻撃的なサッカーの具体的なスタイル、今シーズンの目標について教えてください。
そして、永島さんには INAC 神戸に期待することをお聞きできればと思います。



～スローガンは「Ignition」人がワクワクするサッカーをしたい～

宮本さん）
まず目標は WE リーグ、カップ戦、皇后杯の三冠です。昨シーズンどれも惜しいところで逃していますが、女子サッカーを牽引してきたＩＮＡＣ神戸にとって必ず求められるものだと感じています。始動日のミーティングでもチーム全員で「三冠を目標にやりたい」ということを話しましたが、そんなに簡単に三冠が獲れるわけではないので、そのために球際の強さや、走ることだったり、自分たちがどういうサッカーをしたいのか、しないといけないのかを考えてやっています。

そして目指すサッカーは人がワクワクするサッカーです。みている人が求めているのは、ゴールの瞬間だと思います。みている人が感動して、応援してもらえるようなサッカーをしたいですね。
スローガンの Ignition（イグニッション）は心に火をつけるという意味で、みんなに勇気を与えられるようなゲームをしたいと思います。

永島さん）
宮本さんは日本代表コーチをされてきましたが、コーチと監督は違うものだと思います。これまでのところ思ったとおりにできていますか。

宮本さん）
自らやりたいと思って監督をさせていただきましたが、自分でスケジュールやトレーニング内容も全部決めないといけない、試合ではメンバーを決めて交代のタイミングも自分で決めないといけない。監督をするうえで当たり前のことですが、想像していた以上に決断の瞬間ばかりで、采配の難しさや恐怖を感じることもある。勇気や気持ちの強さが必要なので、自分がどう振る舞うかも考えています。素の自分でやっているつもりですが、いろんな人に影響を与える立場なので、難しさと面白さを感じているところです。

永島さん）
宮本さんのコーチ時代の代表戦を見ていて、宮本さんはゴールの瞬間などとても感情豊かで喜怒哀楽がハッキリしている印象があります。これは選手にとってもスタッフにとっても重要でストレートに向き合っていることが伝わると思います。
マネジメントの視点で言うと、まず自分の選択肢を準備しておくことは大事だけど、その瞬間瞬間、選手に何を言ってあげるか、どういう行動をとるかの連続なので、目の前のことに自分らしく思い切ってやってもらいたいですね。
そして、この神戸で監督業をスタートして、将来世界に誇れる素晴らしい監督になってもらうことを期待しています。



絞めの言葉になったけれど、これで対談を終わったらダメだよね（笑）

まだ始まったばかりなので終わらないでください（笑）

宮本さん）
確かに、ここ数試合を経験して、選択肢をどれだけ準備して用意できているかがとても大事だなと実感しています。まだまだ全然足りてないなと。

～サッカーを通じて地域を活性化し、女子サッカー発祥の地 神戸から世界へ～

永島さん）
そう、それは経験値だと思う。そのポジションに立って感じてわかること。宮本さんは本当にサッカーが好きで、そして勝負事は勝ちたいと思うだろうし、何よりも楽しんでいることがわかるので、INAC がこの舞台を与えてくれたことに感謝して、これから INAC だけでなく、WE リーグそしてなでしこジャパンの世界一につながるように貢献してもらいたいなと思っています。



宮本さん）
今日のテーマかと思いますが、INAC がより魅力的なクラブになることが WE リーグ（日本女子プロサッカーリーグ）の発展にもつながると思うので、これまでの多くの方の努力に感謝しながら、しっかり次につなげていきたいと思います。神戸は女子サッカー発祥の地なので、神戸が土台となって女子サッカーを発展させていければと感じています。

永島さん）
日本サッカー協会の理念はサッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献すること。競技面に注目されがちだけれど、それだけでなく例えば能登半島地震の被災地支援など、サッカー以外の活動にも力を入れている。神戸にとって今年は阪神・淡路大震災から 30 年の節目であり、ヴィッセルにもＩＮＡＣ神戸にも地域に根差して様々な場面で、たくましい地域の人材を育てていくような活動を率先してやってもらいたいと思います。

宮本さん）
関西に来て思うのは、阪神タイガースのファンの熱気ってすごいですよね。生活の一部というか、みんなの生きる希望のように感じます。
INAC が神戸の人々にとって欠かせないものになれるように、次の日のモチベーションにつながるような存在になりたいと思います。選手の頑張りを見て、自分たちも頑張ろうとか新しいことにチャレンジしようと思えるような試合を見せられたらと思いますし、元気を感じてもらえるように頑張りたいと思います。



WE リーグができたことはとても大事で、私が選手の時はただサッカーが好きでやっていたけど、いまは WE リーグを目指して夢に思えるステージができた。その舞台を続けていくことは私たちがやっていかないといけないこと、責任だと感じています。憧れてもらえるようなチーム、選手になれるようにと選手たちとも話をするし、サッカーの発展に貢献し、サッカーを通じて地域の活性化につなげていけたら嬉しいなと思います。

神戸の子供たちにも監督からメッセージをお願いします。

～自分の好きなことを一生懸命やることが自分の財産になると子供たちに伝えたい～

宮本さん）
私は小さい頃からサッカーをやってきましたが、サッカーは大切なことを学べるスポーツだと感じてきました。あいさつはもちろん、チームで活動するうえで自分がどうすればよいかを考えたり、自分を活かしてもらうためには何をしたらよいかなど。また、試合や遠征で色々な場所に行き、多くの出会いがある。それは今の自分の財産です。サッカーはとても楽しいですが、神戸の子どもたちにはサッカー以外でも、自分が好きなことをとにかく一生懸命やってもらいたいと思います。それがきっと自分の財産になると思います。

ありがとうございます。
さて、監督・コーチ・選手間のコミュニケーションがとてもよくとれているように思いますが、心がけていることがあれ教えてください。

宮本さん）
特別なことは何もしていないですね。コミュニケーションが一番大事だと思っていて、強いチームであるほど多いと思います。日頃から、選手とスタッフには高いレベルで要求をしていますし、スタッフ同士のコミュニケーションも図れていると思います。それは選手にも伝わるので意識しているところではあります。

～本当のチームワークとは仲良くすることではない！～

永島さん）
チームで仲良くしなさい、とか言っている？

宮本さん）
「私はチームで仲良くしてほしいとは１ミリも思っていない」と最初のミーティングでも言ったんです。
「本当のチームワークは、まず自分の力の 100%は何なのか、それを精一杯出すことが大事。周りは何が足りないかを補ったり伸ばしてあげる、時には厳しいことも言う、それが本当のチームワークだと思う。それをやってほしい」と伝えました。グランド外のことはあまり気にしていなくて、誰と誰が仲良いとかは関係ないですね。
でも、最近の若い子はあまり喋らないし、自分のことを発するのは苦手かなとは感じます。



永島さん）
こちらが熱く語ると「この人、大丈夫か！？」みたいに見られるしね（笑）
僕が思っているのは、90 分間のうちボールに触っているのは 3 分くらいで、87 分間はボールに触っていないかもしれない。でもその 87 分間の仕事がすごく重要だと思う。アシストだったり、声出しだったり、見えないところでカバーすることが大事です。これは世の中でも長い人生の中でも学校、会社でも同じで、サッカーを通じて人生で大切なことを身につけられる。それぞれの置かれた場所で、どう貢献するかを考えることが大事なんだと思っている。

話が変わるけれど、最近はすぐパワハラだとか言われるけれど、選手がミスした時にはしっかり伝えないといけない。個人が怠ったミスはその瞬間に言わないとわからないのでしっかり監督に指摘してもらいたい。一方で一生懸命準備してチャレンジしたミスは褒めてやらないといけない。いま何故叱られたのか褒められたのかを感じることで人間は成長する。パワハラとかを気にすることなく、あなたのためにやっているということを遠慮せずに言ってもらいたい、やってもらいたいと思ってます。その宮本監督のその瞬間の言動が見ている人に共感を与えるから。

宮本さん）
ありがとうございます。

～素晴らしい監督との出逢い～

永島さん、宮本監督にとって、それぞれこれまで一番影響を受けた監督を教えてください。

永島さん）
ヴィッセル神戸初代監督のスチュアート・バクスター監督ですね。



先日のヴィッセル神戸 30 周年チャリティマッチの時に本当に久しぶりにお会いできました。とてもお元気でほんとに懐かしくて嬉しかったですね。
バクスター監督は震災の本当に大変な時期に一緒に過ごしました。家族と共に神戸に残ってくれました。
彼が何よりすごかったのは、指導している時の話で、明らかに間違ったプレーを選択した選手に対して、「君は悪くない、でも違う選択肢はなかったのか」と冷静に問いかけたことです。監督の顔を見ると、もう真っ赤になっている、真っ赤になって見るからに怒っているんです。でも冷静に問いかけたんです。それを見て凄いなと思いましたね。我慢強いと言うか、いまから 30 年前のことですから、まさにいま必要とされている指導方法であって、どうマネジメントしていくかを感じました。彼は決して選手を責めることなく、もう一度考えさせたんです。自分の選択がどうだったかを。感

情をコントロールして、その人にとって大切な言葉をその瞬間チョイスして指導していく姿勢にすごいなといまでも鮮明に記憶しています。
人間的な部分でも尊敬できたし、指導者として備えている幅の広さ深さがあって、非常に素晴らしい方とご縁があって良かったなと思っています。

宮本さん）
とてもいい話をお聞きしたので、言いにくいですが…私が小学生時代からこれまでお世話になってきたすべての監督の皆さんから影響を受けましたし感謝しています。
その中でも自分が監督をやってみたいと思ったきっかけというか、その影響を受けたのは、日本女子代表監督だった池田太さんですね。U-19 代表の時からご一緒させていただきました。説明するのが難しいですが、監督としてやらなければいけない基礎、スタイルを勉強させていただいたと思っています。とにかく、細部まですごく準備されていてほんとにすごい方でした。
でも、サッカーのスタイルは全然違うので、そこはもう濁しておいてください（笑）



永島さん）
自分が現役の時だけど、メディアに言った言葉が残像としてずっと残っていて、自分は変化している、進化しているのにその言葉だけが残っていて葛藤があったことを思い出しました。
監督の場合は、自分の発した言葉がメディアに活字として残るし、そこに責任はあるけれど、それは進化しているので、宮本監督には気にせずにどんどん発信してもらいたいと思います。
そして、これから 10 年後、20 年後にいろんな選手やスタッフから「これまで素晴らしい出会いがあった」という話が出て、その監督の名前が「宮本ともみ」だったら、今日とても重要な対談ができたっていうことになるね。

とてもいいお話でした。今日は長時間ありがとうございました。

永島さん、宮本さん）ありがとうございました。

《対談終了後》

永島さん）
ところで、神戸の街はどうですか。神戸に来られて三か月ほど経ったと思いますが。

宮本さん）
最高ですね。とてもいい街です。食べ物も美味しいですし。

永島さん）
もう「そばめし」食べたかな。

宮本さん）
そばめし？って初めて聞きました。

永島さん）
そばめしはね、神戸のソウルフード。ぜひ食べてみてください。
明石焼きもおすすめやね。たこ焼きにソース付けてだしにつけて食べるのが「つう」やから（笑）

宮本さん）
食べてみます！またひとつ楽しみが増えました。

（2025 年 8 月 22 日　六甲アイランド　神戸レディースフットボールセンターにて）

【対談者プロフィール】

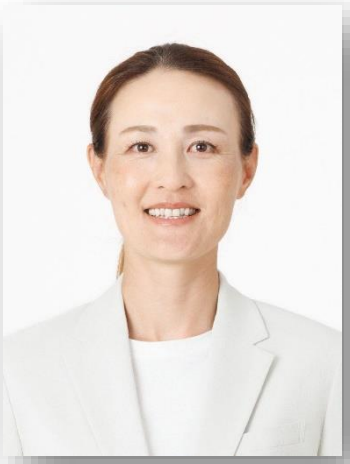
永島 昭浩



元サッカー日本代表・ヴィッセル神戸 FW
スポーツキャスター
（公財）日本サッカー協会　日本代表 OB・OG 会会長
（公財）神戸市スポーツ協会評議員　他

【経歴】
1964 年 4 月生まれ　神戸市出身
1983 年　松下電器産業（現ガンバ大阪）に入団。
1993 年　ガンバ大阪 FW として日本人初のハットトリックを達成。
1994 年　清水エスパルスに移籍。同年オールスターで MVP 賞。
1995 年 1 月 17 日、阪神・淡路大震災で実家が全壊し、「街を勇気づ けたい」とシーズン途中から JFL のヴィッセル神戸へ移籍。翌年 JFL2 位で J リーグ入りを決める。
1997 年　現役最年長ストライカーとして全試合に出場し、日本人最多の 22 点を挙げ、フェアプレー個人賞を獲得。
2000 年　現役引退。

宮本　ともみ



元サッカー日本女子代表（国際Ａマッチ 77 試合出場）
前なでしこジャパン（日本女子代表）コーチ
ＩＮＡＣ神戸レオネッサ監督

【経歴】
1978 年 12 月生まれ　神奈川県出身
1994 年　相模原 SC 入団
1997 年　プリマハム FC くノー（現伊賀 FC くノー）に入団。同年日本代表に選出。
1999 年　第 3 回 FIFA 女子世界選手権アメリカ大会に出場（以降、ワールドカップ 3 大会連続出場）
2013 年　現役引退。
2017～2022 年　U16～20 各年代日本女子代表コーチ
2021～2024 年　なでしこジャパン（日本女子代表）コーチ
2025 年　INAC 神戸レオネッサ監督就任